

阪神・淡路大震災の記憶について

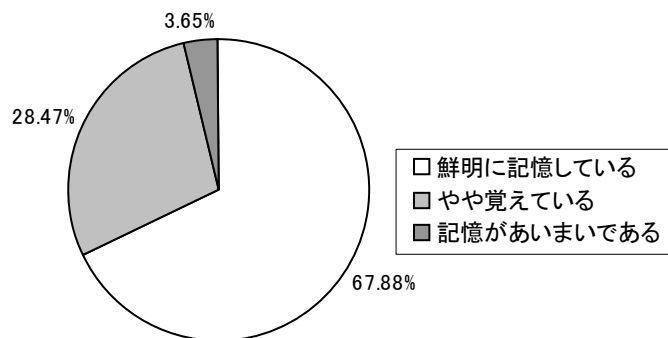
本年は阪神・淡路大震災から丸15年となります。そこで、阪神・淡路大震災の記憶や日本の耐震化の進捗について設問を設けました。

■ 阪神・淡路大震災の記憶について

- 設問** 【設問1】 ● 阪神・淡路大震災について、どの程度覚えていらっしゃいますか？
 【設問2】 ● 阪神・淡路大震災の被害について、どの程度覚えていらっしゃいますか？

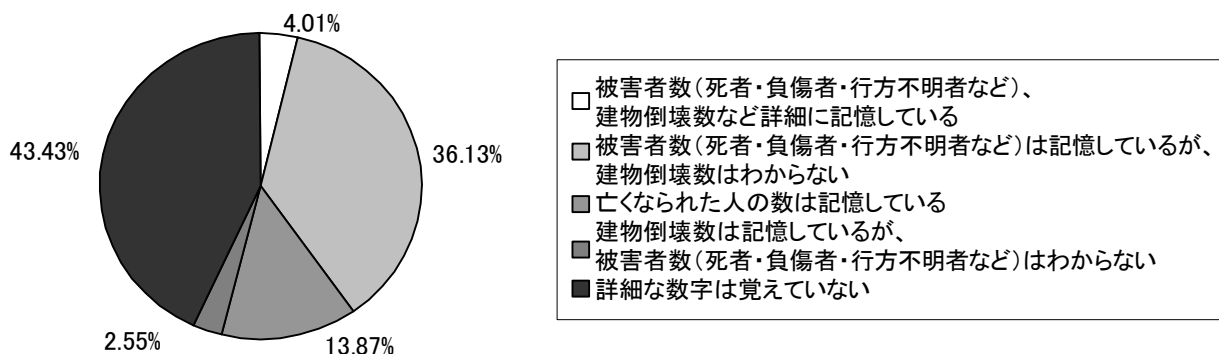
設問【1】の回答

	件数	割合
鮮明に記憶している	186	67.88%
やや覚えている	78	28.47%
記憶があいまいである	10	3.65%
ほとんど覚えていない	0	0.00%
合計	274	



設問【2】の回答

	件数	割合
被害者数（死者・負傷者・行方不明者など）、建物倒壊数など詳細に記憶している	11	4.01%
被害者数（死者・負傷者・行方不明者など）は記憶しているが、建物倒壊数はわからない	99	36.13%
亡くなられた人の数は記憶している	38	13.87%
建物倒壊数は記憶しているが、被害者数（死者・負傷者・行方不明者数など）はわからない	7	2.55%
詳細な数字は覚えていない	119	43.43%
合計	274	



■ 震災の記憶に風化の兆し—「鮮明に記憶している」が67.88%にとどまる

阪神・淡路大震災から15年が経過しますが、「鮮明に記憶している」と回答した方が全体の67.88%にとどまり、震災の記憶に風化の兆しが見られることがわかりました。

耐震化の推進には防災意識が不可欠です。今一度あの震災の教訓を見直し、私達が今やるべき事を再確認する必要があると思われまます。

■ 震災の記憶はイメージ先行 防災対策には正確な情報の認識から

震災の被害の詳細に関する設問では、詳細まで把握している割合はわずか4.01%であり、震災の記憶はイメージ先行であることが明らかになりました。

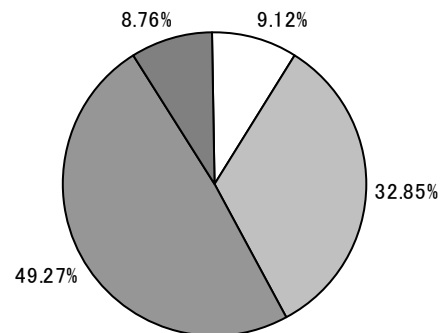
防災対策の第一歩は「自身が被災することを想定する」ことです。阪神・淡路大震災から丸15年を迎えるにあたって、まずはあの震災の被害についての正確な情報を見直し、自らが被災する可能性についてきちんと認識することが大切であると考えられます。

■ 耐震化の進捗状況をどう感じているか

設問

● 阪神・淡路大震災から日本の耐震化は本格的にスタートしたといっても過言ではありません。あの震災から15年経過しますが、日本の耐震化は進捗しているとお考えですか？

	件数	割合
順調に耐震化が進んでいる	25	9.12%
まあまあ進捗している方だと思う	90	32.85%
一応進捗しているがスピードが遅い	135	49.27%
ほとんど進捗していない	24	8.76%
合計	274	



□ 順調に耐震化が進んでいる □ まあまあ進捗している方だと思う
■ 一応進捗しているがスピードが遅い ■ ほとんど進捗していない

■ 耐震化の進捗は「スピードが遅い」49.27%

日本の耐震化については、「一応進捗しているがスピードが遅い」と回答する方が約半数の49.27%でした。また「順調に進捗している」と回答する方は9.12%と少なく、全体的に耐震化の動きは認識されつつあるものの、まだまだ一般に浸透しているという域ではないことがわかりました。